

知ってる? 栽培漁業

みんなで取り組む「豊かな海づくり」

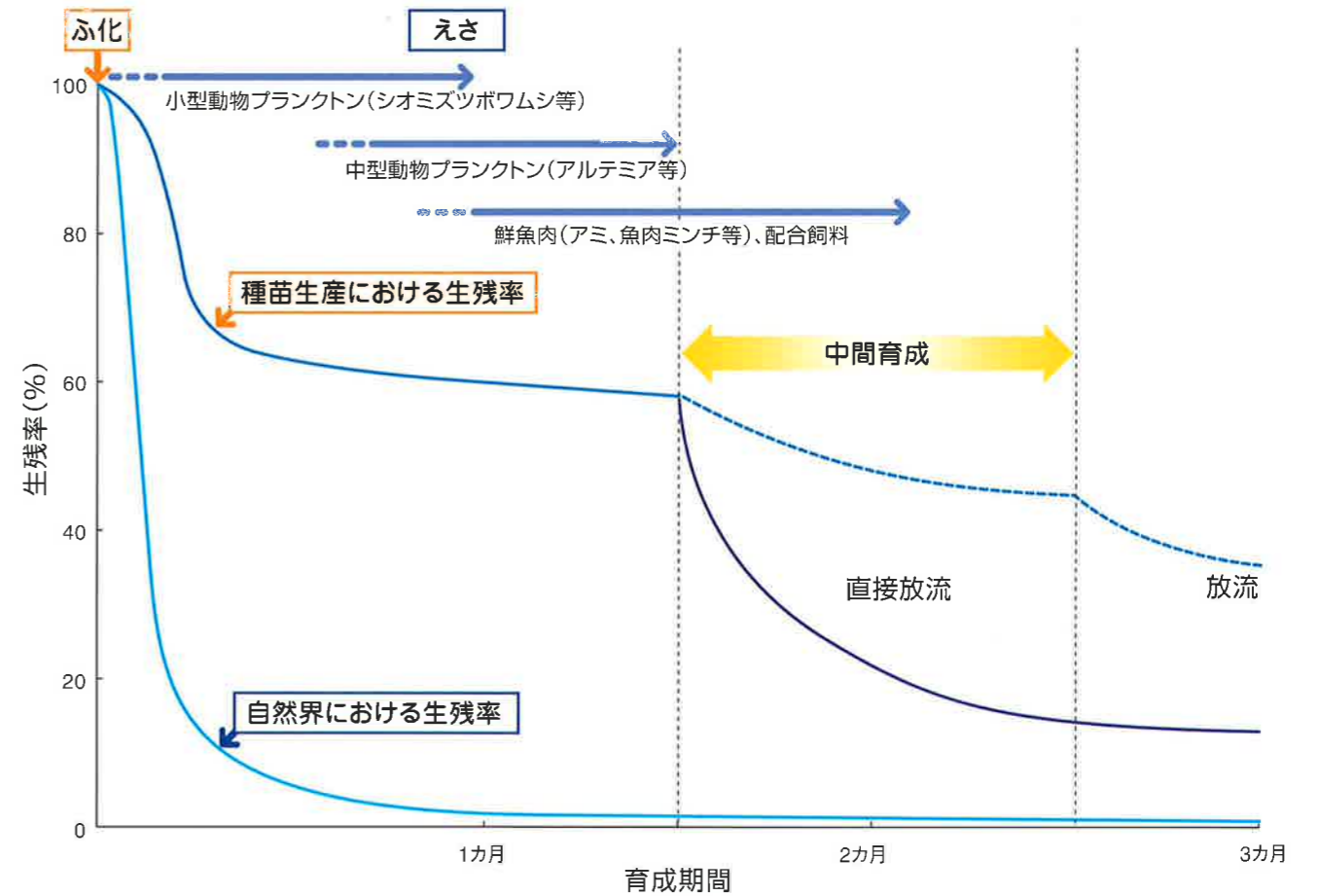




➡ 栽培漁業について知ってますか

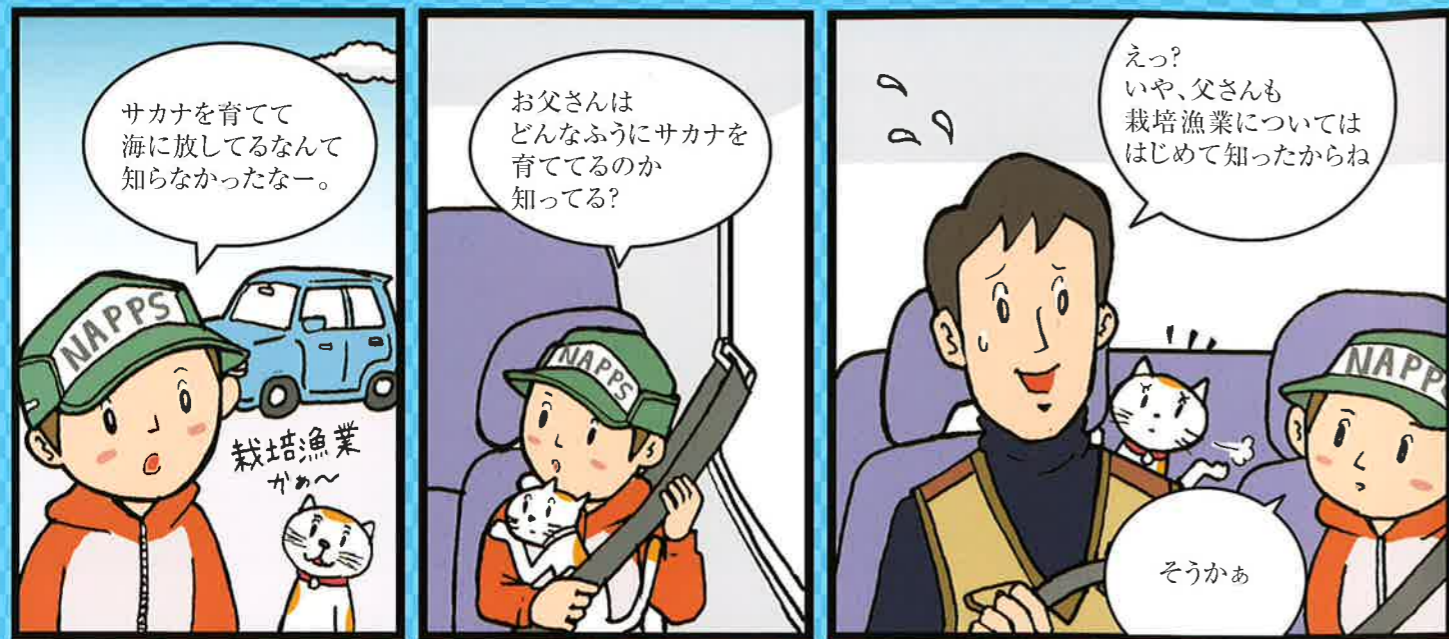
栽培漁業の考え方は、水産動物の減耗が最も激しい卵から稚仔の時期を人間の管理下において種苗を生産し、これを天然の水域へ放流した上で適切な管理を行い、対象とする水産動物の資源の持続的な利用を図ろうとするものです。対象種の水産資源への加入量を積極的に増大させるだけでなく、放流水域における資源管理を通じ、対象種以外の水産動物をも包括した資源管理の展開を促進し、水産資源の安定化と増大に資することを目的としています。

生存率の比較



標識を付けたヒラメ

種苗放流が漁獲にどれくらい貢献しているかを、放流魚に標識をつけて再捕することで確かめてるんだよ。標識はサカナの移動を調査するのにも役立っているんだよ。



➔ 栽培漁業は幾つかのステップで成り立っています。

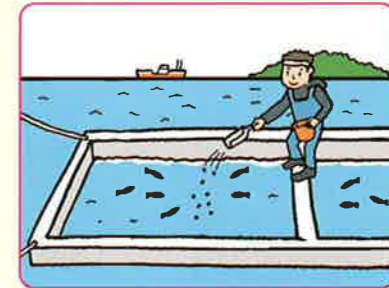
1 種苗生産 (しゅびょうせいさん)

元気な親から産まれた卵をふ化させ、プランクトンや人工のえさを与えて、自然の海で死んでしまうことが多い時期を、室内の水そう等で飼育管理します。



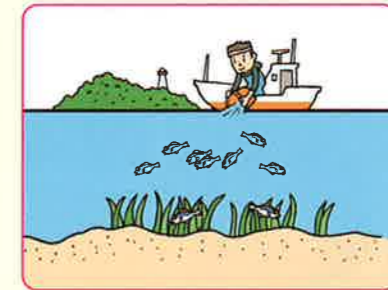
2 中間育成 (ちゅうかんいくせい)

人の手で大切に育てられた種苗は、放流した後に自分でえさをとる能力や、がいてきからおそわれても逃げたりかくれたりする能力が不足しているため、海に近い環境を持つ施設(いけすなど)に入れて能力がつくまで大きく育てます。



3 放流 (ほうりゅう)

中間育成で大きくなった元気な種苗は、海そうのたくさんはえている海域や干潟など、えさになる生物のたくさんいる育ちやすい環境の海に放します。



サカナの成長にあわせて次のステップへ進むんだよ

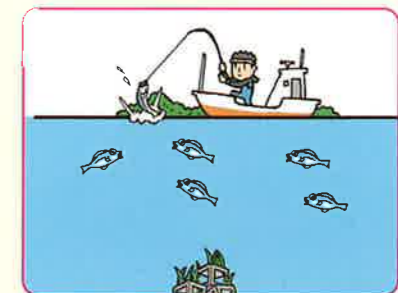
4 管理 (かんり)

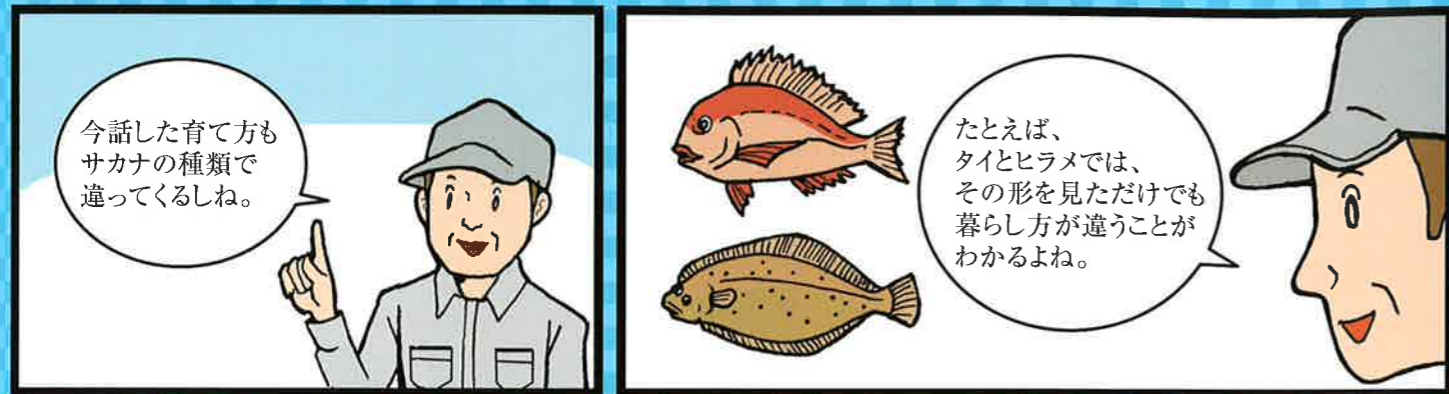
放流したサカナのすみやすい環境づくり(例えば魚のすみかとなる魚礁の設置、海底のそうじなど)をしたり、魚をとる期間、道具や方法を定めることで小さい魚を保護します。また、放流効果の調査も行います。



5 漁獲 (ぎょかく)

保護、管理して大きく成長させたサカナを決められた期間に正しい道具と方法により計画的に獲るようにします。



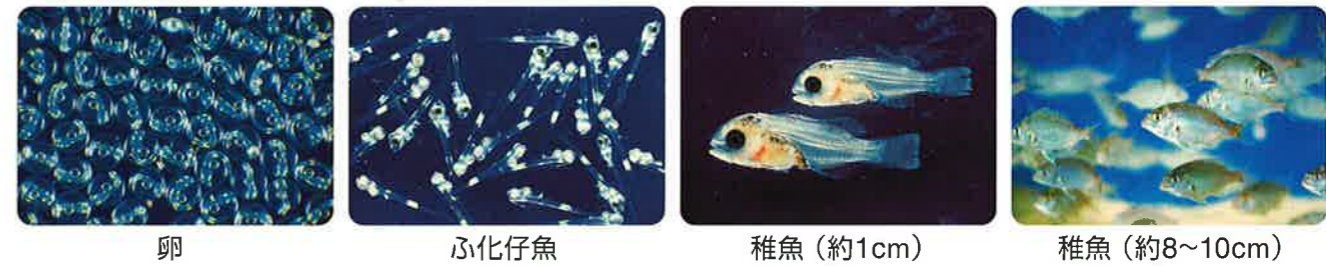


いろいろなサカナを育てています。

●ヒラメ



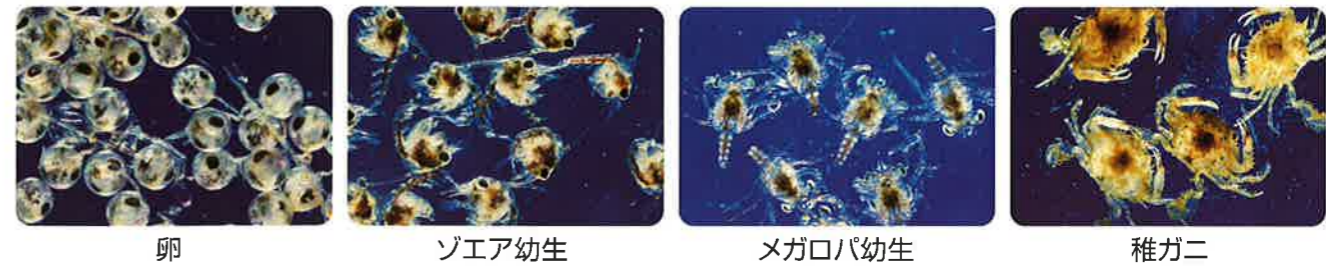
●マダイ



●クルマエビ



●ガザミ



写真提供:独立行政法人 水産総合研究センター





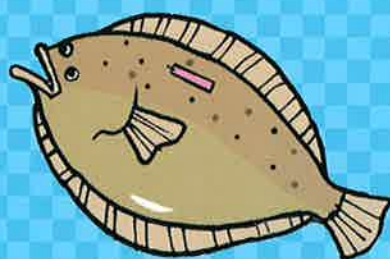
➡ 栽培漁業への取り組みは日本全国で行っています。

現在、独立行政法人水産総合研究センターには16の栽培漁業センター、栽培技術開発センター等があり、都道府県には70ヶ所の栽培漁業センターがあります。その他、市町村のセンターもあります。これらの栽培漁業センターで、マダイ、ヒラメ、クルマエビ、ガザミ、アワビ、ホタテガイなど、約80種類が種苗生産されており、各地で放流が行われています。

全国の栽培漁業センター

- 水研センターの栽培漁業センター等
- 都道府県の栽培漁業センター





もっと詳しく知りたいときは
こちらまでお問い合わせください。

社団法人 全国豊かな海づくり推進協会
National Association for the Promotion of Productive Seas (NAPPS)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町9番6号 小伝馬町松村ビル6階
TEL : 03-5651-3501 FAX : 03-5651-3502
E-MAIL : info@yutakanaumi.jp URL : <http://www.yutakanaumi.jp/>